

エンジンシステム診断技術講座が 新聞記事に載りました

日刊自動車新聞

エンジン診断機活用へ 技術講座をスタート

ユーザーとの関係強化支援

静岡 整振

【静岡】静岡県自動車整備振興会（杉山寛孝会長）は、エンジン診断機を使いこなすことで会員事業者の信頼性向上と収益力アップ、ユーザーとの関係強化を図ることを目的に「エンジン診断技術講座生力キニウム」をスタートさせた。今年度内4日間、午前12時間の講座を開催、来年度から開催場所をも増やし内容を一層、充実させ計画的に展開する計画だ。

来年度は浜松、沼津でも

ハイブリッド車の急速な普及に伴い、エンジン診断機の高機能化が進む中、整備事業者にとってエンジン診断機の重要性はますます高まっている。ただ、さまざまな機能を持つエンジン診断機を十分に使いこなしている事業者は少なく、トラブルシューティングなどの故障診断中心の利用にとまどっているケースが大半となっている。

実際、静振振の調べによると、診断機を持っていても利用回数が少ない事業者の場合、月々5000回というケースもある。入庫車すべてを診断機でチェックすれば、それぞれの車両のエンジンデータ

を記録できることから、定期点検などの際、数値の変化を読み取ることで、事前にトラブルを予知し、予防整備につながることもできる。また、さまざまな活用方法がある。こうしたことから、今回、7事業者を対象に3月16、19、23、26日の4日間、わたり技術講座を開催することになった。カリキュラムは、学科が3時間、実技が9時間となっており、最終日には確認テストを実施した上で、修了者に「エンジン診断技術講座修了認定証」を授与する、としている。

今回は、診断機を所持している事業者が、それぞれ診断機を持ちながら形で講座を開催するが、新年度からはこれから購入を予定している事業者も対象に実施するほか、開催場所も岡部、浜松、沼津の3カ所に拡大する計画だ。

静岡新聞

(第三種郵便物認可)

ハイブリッド車普及で整備業者

随所に高度な電子制御

ハイブリッド車（HV）の本格普及が始まり、HV特有の技術や仕組みが多岐にわたる自動車整備工場の技術者が県内で急増している。県自動車整備振興会（静岡市）が開いている技術講習会には本年度、前年の10倍の整備士が受講した。HVや電気自動車などの急激な進化に伴い、車体の随所に高度な電子制御技術が採用されることが多く、これまでの熟練技術とは異なる整備技術の習得が不可欠なためだ。

経済 スポット

「専用の診断機を使って正常データの確認、記録作業をしてみよう」と。静岡市内で先週末、同振興会が開いた講習会8人の整備士が電子システムの故障箇所を見つけ、修理するための技術や、診断機の扱い方などを学んだ。HVなどは高圧システムを採用してショック以降、県内の新しいことから、事故や故障車販売台数は激減した。臨時の脱着作業は危険を一方で政府のエネルギー減

県自動車整備振興会の技術講習会。ハイブリッド車などに対応するための新たな整備技術習得に業者の関心が高まっている。静岡市駿河区

対応遅れは経営に打撃も

税金などが購買欲を刺激し、HVはエコカーを中心とする一部車種は、昨春からの回復の兆しを見せている。今年に入っても受注は堅調で、スポーツタイプの新型にも関心が高まっている。HVの整備に対応するため同振興会は10年ほど前から技術講習会を開いている。2008年度は年間入った参加者は本年度、600人まで膨れ上がった。講習担当者らは、車の進化の対応に遅れると、整備工場の経営に大きな打撃となると指摘する。

同振興会は来年度からHVのエンジン診断技術講座を開催し、修了者は独自の認定証を発行する方針も固めた。松浦定典専務理事は、3年後には（エコカー減税など）で本格普及したHVの車検が回ってくる。整備業者が意識改革しなければ、質の良いサービスが提供できない、と技術習得を呼びかけている。